

2021年度第1回

ECC コンピュータ専門学校 学校関係者評価委員会報告書

学校法人山口学園 ECC コンピュータ専門学校 学校関係者評価委員会は、2021年9月16日に「2020年度自己評価報告書」に基づいて学校関係者評価委員会を実施しましたので報告致します。

2021年9月16日

学校法人 山口学園

ECC コンピュータ専門学校

学校関係者評価委員会

開催日時：2021年9月16日（木）16:00～18:00

場 所：ECCコンピュータ専門学校4号館5階 4502教室

委 員：【関連業界等関係者 「学校評価実施規定12条第1項(1)」】

伊藤 裕一 氏 (インフォームシステム株式会社 取締役CTO) 委員長<欠席>

野間 伸治 氏 (株式会社アコードセブン 代表取締役) <オンライン参加>

【卒業生 「同第12条第1項(2)」】

大西 和貴 氏 (ITエンジニア：さくらインターネット株式会社)

瀧脇 あかね氏 (ゲームクリエイター：株式会社ニューロンエイジ) <欠席>

【保護者 「同第12条第1項(3)」】

田中 かおる 氏

【地域関係者 「同第12条第1項(3)」】

中上 隆雄 氏 (済美地域社会福祉協議会 会長)

【高等学校関係者 「同第12条第1項(4)」】

貴治 康夫 氏 (立命館高等学校 教員)

【同席者】

宇佐見 真也 (ECCコンピュータ専門学校 学校長)

納谷 新治 (ECCコンピュータ専門学校 副校長・教務課責任者)

伊澤 幸徳 (ECCコンピュータ専門学校 教務課副責任者)

池田 宗人 (ECCコンピュータ専門学校 進路指導課責任者)

芦田 慶太郎 (ECCコンピュータ専門学校 入試課責任者)

徳田 典 (ECCコンピュータ専門学校 主幹教員)

福井 浩之 (ECCコンピュータ専門学校 主幹教員)

▷冒頭（宇佐見）（宇佐見）

委員長の伊藤様にご欠席のため、本日は私が司会進行を務めます。

また、保護者委員として新たに田中様のご参加、学校の体制として入試課の責任者が芦田に変更となりました。

昨年は新型コロナウイルスの影響で、変化の多い一年となりました。しかし、ネガティブなことばかりではなく、新たな発見も多くあり、中でもオンライン授業などニューノーマル時代への対応といえる経験ができました。

それでは、2020年度の自己評価報告書について、項目別に担当者よりご報告させていただきます。

都度ご質問・ご意見等頂ければと思います。

▷基準1 教育理念・目的・育成人材像（宇佐見）

これまでと変わらない内容のため、割愛させていただきます。

▷基準2 学校運営（宇佐見）**・ 項目総括**

昨年から教職共同での円滑な学校運営を目的に、主幹教員2名を任命しました。

ゲーム・クリエイティブカレッジ：福井 ITカレッジ：徳田

・ 運営組織

2021年4月にECCコンピュータ専門学校 高等部を新設。

初年度は3名の入学者であったが、2022年4月には約20名入学する予定。

卒業後はECCコンピュータ専門学校に入学し、クリエイターを目指してほしいと考えています。

・ 人事・給与制度

専任教員の採用が難しく、特にゲームプログラム系の教員が不足しているのが現状です。

質疑応答

質問（貴治）

主幹教員は学校運営と授業どちらにも関わりますか？

回答（納谷）

はい。授業以外にも教育目標を達成するために必要なカリキュラムづくり、教科主任の選定、授業担当の割り振りなどを行っていただいています。

質問（貴治）

実際に主幹教員を設置してどうですか？

回答（納谷）

本校では職員と教員が分かれています。実際に授業を行うのは教員。その教員が学校運営にも関わることによって教職共同の学校づくりが行えるので、現在では必要不可欠な存在と感じています。

▷基準3 教育活動

（納谷）

・ 目標の設定

昨年は学校全体のディプロマポリシーが分かりにくいのご意見を頂きましたので、今年度は改善のため、HAND BOOK 記載の文言を改定しました。

どういう力を身に付けて卒業するのかを専門力、国際力、人間力、の観点から具体的に記載。

・ 教育方法・評価等

英会話授業のカリキュラムを一新し満足度は向上しました。

授業評価においては、専任教員による授業見学会を行うことで授業満足度は向上している。

今年度は非常勤講師を見学対象に変更しました。

・ 成績評価・単位認定等

新型コロナウイルスの影響により一斉休講や全科目オンライン授業を行うも、環境整備が上手くいかない状況があった。後期から対面授業とオンライン授業の両方を取り入れて行う。

一方で、コロナ禍においても日本ゲーム大賞アマチュア部門大賞受賞、専門学校セキュリティコンテスト2年連続優勝、Hack Uで優秀賞を受賞など、コンテスト実績は好調でした。

・ 資格・免許の取得の指導体制

ITの資格検定においては試験方式が変更になり、例年通りの対策授業ではなく、オンデマンド方式で対応しました。

・ 教員・教員組織

IT分野の教員の専門性に課題を感じているので、研修・研究の機会を与えていく予定です。

（徳田）

ITは直近2～3年でカリキュラム整理を行っており、インプット重視から、開発重視のものづくり授業を増やしています。新たな取り組みとして、Webデザインコースとのチーム制作も進めています。

国家資格は受験の方式が変わっているので、今後対応していく必要があると感じています。

・ 質疑応答

質問（大西）

英会話のカリキュラムはどのように変更されましたか？

回答（納谷）

以前までは、インプットと繰り返しの多いテキストを使っていたのですが、変更後はアウトプットを重視する方式に変更。上級学生はITに特化した英語の学習も行っています。

質問（野間）

オンラインと対面授業の違いや課題はありますか？

回答（納谷）

科目の約7割は対面授業、残りはオンラインでの授業を行いました。

オンデマンド授業を始めた当初は、「資料が分かりにくい」、「課題ができない」、などの問題はありましたが、現在は解消されています。英会話や就職対策は、現状オンラインで行っていますが、本来対面で行った方が効果的な授業であるため、課題と捉えています。

▷基準4 学修成果

（池田）

・ 就職率

昨年は新型コロナウイルスの影響で就職活動は思うように進めることが出来ませんでした。内定率、業界就職率は一昨年と遜色ない結果となりました。

3～5月は採用活動の鈍化もあり、厳しい状況でしたが、求人はゲーム・ITともに他業界ほど減少は見られませんでした。

一方で、就職活動の内定へのハードルは上がっており、理由としては、他業界志望であった大学生がIT業界へエントリーする傾向が強まったこと、オンライン選考が増えた結果、エントリーできる数が増えたことなどが考えられます。

・ 卒業生の社会的評価

就職後の活躍まで聞き取りを行っていますが、新型コロナウイルスの影響で思うようにできませんでした。

就職直後にオンラインでの研修などが増え、社会人への切り変えに苦戦した卒業生が多数いた印象。

引き続き卒業生のフォローを続けていきます。

▷基準5 学生支援

（池田）

・ 就職等進路

一人ひとりのニーズに合った進路指導を心掛けているが、新型コロナウイルスの影響で対面指導できる機会が減少。今年はスタッフを増員し、よりフォローを手厚くしていく。

（伊澤）

・ 中途退学への対応

昨年は89名（7.9%）の休退学者があり、目標の5%以下は達成できなかった。

新型コロナウイルス感染症を原因とした退学者6名、休学者6名、入学保留者3名であった。

対策として、学生サポートチームを導入。また、一般的なPCスキルを身に付ける新専攻の立ち上げも行い、例年では退学していた層の受け入れ先として機能している。

・ 学生相談

常駐している学生カウンセラーと教務課でミーティングを行い学生への対応方法の検討や、教職員への指導を行っています。留学生が全学生のうち 190 名（14%）と増加しているため、留学生指導の経験のある職員、教務スタッフの留学生対応の知識を増やしていく必要を感じています。

・ 学校生活

奨学金の受給者は貸与・給付含め在校生の過半数を占めているので、対策が必要。

学生の健康状態の維持については、年に 1 度の健康診断を実施。

クラブ・サークル活動の経費に関する部分を教務課が一括管理を行う体制へ変更。

・ 保護者との連携

保護者会の出席率は年々増加傾向しておりますが、姉妹校（ECC 国際外語、ECC アーティスト美容）と比較すると参加率は低めで推移していることが課題であり対応検討中です。

（納谷）

・ 卒業生・社会人

卒業生アプリを 2021 年から稼働していますが、現状は狙い通りに動いておりません。

質疑応答

質問（貴治）

保護者会の参加率が低い原因は何でしょうか？

回答（伊澤）

原因は模索中です。

今後は、オンラインでの保護者会なども検討していく必要があると考えている。

質問（貴治）

留学生の増加とありましたが、国籍はアジアが多いですか？

回答（伊澤）

ベトナムが一番多く、次点で中国。

その他、台湾、韓国、インドネシアなどが多くみられます。

意見（田中）

周囲では大学では保護者会には基本参加しない傾向にある。

IT やゲームなどは専門的で保護者はよくわからないので、子供に任せている傾向があると感じています。

▷基準 6 教育環境

（伊澤）

・ 項目総括

2020 年度は大幅に設備の新設・増強を行いました。また、新型コロナウイルス対策の観点からデジタルサイネ

ージの検温、除菌装置、アクリルパーテーションなどの設置も。
環境面では、有線 RAN 強化、スタジオの設置なども行いました。

・ 施設・設備等

学生からの要求にこたえられるよう、優先順位をつけて対応しています。
特に学生アンケートではネットワーク環境への意見が多く、回線や有線の設備の増強を行っている。

(納谷)

・ 学外実習、インターンシップ等

これまでは東京ゲームショウ、CEATEC などに参加していましたが、コロナの影響でイベントがオンライン開催に変更され、実際にモノに触れる環境から、新作の紹介やサービスの内容などのプレゼンテーションになりました。

フィンランド、セブ島の留学もオンラインに変更。学習内容に変化はないが、現地での異文化体験ができないという違いがあり、オンラインで行う場合は、語学力や技術力の向上を主な目的とする必要がある。

(伊澤)

・ 防災・安全管理

防犯カメラや入管セキュリティシステムを設置していますが、新型コロナウイルス対策のため常時開放しておりセキュリティ対策が手薄になっていた点が課題です。

(宇佐見)

4 号館を新設しました。教室が 10 教室増え、稼働率にも余裕が出来ました。

・ 質疑応答

意見 (大西)

PC を使うのであれば、ネットワークが一番重要。ネットワーク設備の増強について学生からまだ意見や不満があるようであれば、力をいれて対応してほしいと思いました。費用対効果はあると思います。

回答 (宇佐見)

改選の強い 4 号館の新設や、2 号館のネットワークを強化し改善傾向にあります。

意見 (中上)

ネットワーク関係でオンライン授業での障害などはありますか？

回答 (宇佐見)

現状問題なく行えています。

学生個人の自宅での通信環境で若干問題が起きている部分はあるかと思えます。

意見 (貴治)

コロナウイルス対策として、今後抗菌処理を行う予定ありますか？

回答 (宇佐見)

行う予定はありません。

現状は入り口でアルコール消毒を対策として行っており、学内での感染は起きていません。

▷基準7 学生の募集と受け入れ

(芦田)

・ 項目総括

昨年度の学生募集活動はコロナウイルスの影響を大きく受けました。

入学者数は一昨年在学が469名、昨年在学が418名と減少。(留学生含む)

学費面での入学断念や、進路決定の時期が遅くなりそのまま大学へ入学するといった動きが見られました。

・ 学生募集活動は、適正に行われているか

オンラインオープンキャンパスや個別相談会を実施。来校しなくても進路決定できる仕組みづくり。

多方面から学校情報を知ることが出来るようにYouTubeやTikTokの活用を検討中です。

・ 入学選考

昨年度はすべて対面での面接を行いましたが、今後はオンラインでの実施も検討しております。

・ 質疑応答

質問(田中)

オンラインオープンキャンパスでは在学学生と高校生が交流できる時間はありますか？

回答(芦田)

学生主体のコンテンツを用意しており、チャットで質問を行うことで間接的に交流が出来るようになっています。

意見(田中)

娘は高校生のとき在校生との交流で学校への入学の後押しとなったので、学生交流の機会があった方がいいと思います。

▷基準8 財務

(宇佐見)

・ 項目総括

2020年度は、学生数は減少しなかったため年度末に大きく設備投資をしました。

財務に関して特に問題はありませんでした。

▷基準9 法令等の遵守

(宇佐見)

・ 個人情報保護

在校生のメディアへの掲載時には、学生に同意書への記入を行うようにしました。

・ 学校評価

2020 年度から学校関係者評価委員会には学生の保護者様と卒業生に参加して頂く体制へ変更。

▷基準 10 社会貢献・地域貢献

(宇佐見)

新型コロナウイルスの影響で活動はできませんでした。

・ 質疑応答

意見 (田中)

娘は英語が得意ではなかったのに、オンライン留学に変更になったことで留学のハードルが下がり、参加へのハードルが下がったと話していました。

意見 (貴治)

弊社でもオンラインで留学を行っています。

オンライン留学では、英会話が苦手な学生でもチャット機能でコミュニケーションを取れることがメリットだと感じています。

自己評価報告書に関してはここまで

▷2020 年度事業報告について

(宇佐見)

2020 年度の事業報告の内容は追加の資料に記載の通りになります。

昨年度は学校の行事は概ね中止になりました。

IT 資格試験が CBT になるなど、国家試験の結果についても性格な数字で把握が出来ておりません。

学校の在籍者数は今年 1402 名、昨年 1389 名と微増となりました。

学生募集に関しては様々な方法でイベントや発信を行っていますが、さらに学校の認知を上げていく必要があると考えております。

留学生の増加などに伴い、多様化にむけて今後対応していきます。

▷2021 年度前期教育活動報告書について

(納谷)

今年度は緊急事態宣言などへの対応は速やかに行えている。

オンラインの活用で学生交流や企業連携など行うことにより、学生生活への満足度も向上。

前期は 15 週間のうち半分が分散登校、残りを対面授業で行う。登校する学生の数は約 5 割にできましたが、約 7 割の授業を対面授業で行うことが出来ました。

授業満足度、休退学者数、英語教育満足度、は良好。

日本ゲーム大賞は、今年に入賞できませんでしたが、CG 分野で Clab creative Fes で特別賞を受賞しました。

また、IT では技能五輪の予選突破、若年者ものつくり競技大会で銀賞を獲得。

企業連携授業は 1 年生の業界セミナーを中心にオンライン活用で開催をしておりました。

4 号館内にニューノーマル時代への対応策のひとつとして、Web 面接用のテレキューブを設置。

後期の授業は分散登校もしくは対面授業にするかは検討中です。
まだまだ with コロナの意識で学校運営を行っています。

(宇佐見)

新型コロナウイルスについての報告ですが、
昨年の陽性者 2 名 濃厚接触者 12 名
今年の陽性者 24 名 濃厚接触者約 40 名
でした。学内での感染はありませんでした。

・質疑応答

質問(貴治)

本校でも、不登校の生徒がオンライン授業では参加するという動きはみられています。
今後、対面とオンラインを選択してどちらでも授業に出席できるような対応を検討していますか？

回答(伊澤)

今後はそういった対応は必要かと思いますが、現時点で具体案はありません。

質問(田中)

卒業生の離職率を教えてくださいませんか？

回答(池田)

正確な数字はありませんが、昨年の卒業生の離職率は例年より高い傾向にあります。
入社早々新型コロナウイルスの影響で、企業の新入社員への対応が困難だったことが大きな原因かと思われます。
今年の卒業生に関しては、入社早々離職したという報告は現状は少ないです。

閉会のご挨拶

(宇佐見)

コロナ禍の中ご参加いただきまして誠にありがとうございました。
第 2 回は 2022 年 3 月開催を予定しておりますので、改めてご案内をお送りさせていただきます。